

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100042		
法人名	医療法人社団 仁智会		
事業所名	グループホーム 駅西		
所在地	石川県金沢市駅西新町2-12-1		
自己評価作成日	平成31年3月2日	評価結果市町村受理日	令和元年6月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号
訪問調査日	平成31年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道沿いですが、事業所の周囲は閑静な雰囲気です。目前には児童公園があり、近隣の方と自然とふれ合う機会もあるなど環境に恵まれております。
利用者一人ひとりが自分のペースを大切に生活と安全に配慮しながらも自由な外出の支援に取り組んでいます。
利用者・職員・家族の方が、共に支え合い感情豊かな生活を過ごせるような支援に努めています。
地域の一人として地域行事やに参加させて頂いております。
中庭には小さな家庭菜園があり収穫等や景観・季節感を楽しんで頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所と地域のつきあいは、町会活動の除草作業に年二回参加するほか、地区の盆踊り、公民館の文化祭等に利用者も状態に応じて参加している。食材は毎日近くのスーパーへ利用者と一緒に買い物に出かけている。天気の良い日には前の児童公園へ散歩に出かけたり、公園で近所の人や子ども達と触れ合っている。あまり歩けない人はホームの前のベンチに腰かけて日光浴を楽しんでいる。
食事を楽しむ支援では、献立は、1階は1週間分決め、2階は毎日決めている。献立を決める際は、利用者の希望を聞きメニューを作り、それを本人に見せ、食べ、感じてもらう。あるいは、前もって利用者の方にメニューを伝えて、季節を感じてもらうなど工夫している。正月にはおせち、ひなまつりの食事、誕生会の手作りケーキなど、季節行事や誕生月には、ちょっと工夫した食事で楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
61 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
64 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	71 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
65 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	72 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
66 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、法人の理念を元に事業所独自の理念「自然な笑顔と元気な身体で安心して暮せる家」を掲げ、共有し実践している	「自然な笑顔と元気な身体で安心して暮らせる家」という理念とグループホームケアの方針、職員の方針が作成され掲示している。管理者は新入職員に対して個別面談してホームの理念について伝えている。また、倫理綱領や利用者の権利なども掲示されている。職員はみな法人の credo を携行して自らの行動規範としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や近隣のお店に出掛ける事で自然と地域に受け入れられてきている。地域行事(夏祭りや文化祭等)、児童公園の清掃や草むしり等に参加している	町会活動の除草作業に年二回参加するほか、地区の盆踊り、公民館の文化祭等に利用者も状態に応じて参加している。食材は毎日近くのスーパーへ利用者と一緒に買い物に出かけている。天気の良い日には前の児童公園へ散歩に出かけたり、公園で近所の人や子ども達と触れ合っている。あまり歩けない人はホームの前のベンチに腰かけて日光浴を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GH駅西開設記念祭(毎年5月)を催し地域の方の参加の声をかけをしており認知症高齢者に対する理解と協力を得る為の取り組み等を積み重ねている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は、定期的な運営推進会議が開催出来ずサービス向上の取り組みに活かされていない	家族、地域包括、金沢市、消防署員等が参加して開催されている。入退去者状況、ホームページの更新、活動状況、外部評価、近況報告等が報告され質疑応答を行っている。3月の会議では夜間想定消防訓練を行い、訓練後消防署員から講評を受けている。ただ、今年度は2回しか開催されていない。	年間6回の開催が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	十分に情報提供を行なっているは言えない。金沢市主催の研修等に参加している。事故等の報告にて連絡、協力関係を維持している	金沢市とは市主催の研修やセミナー等に参加して協力関係を築くように心がけている。今年度は大きな事故はなく市への報告はなかったが、過去には事故が発生した時には適正に報告を行っている。 運営上不明な点があれば、その都度介護保険課に問い合わせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の設置及開催。施設な研修(勉強会)通じて職員に周知徹底とケアの実践を行っている	マニュアルや指針があり、身体拘束適正化検討委員会を設置して身体拘束をしないケアについて検討している。また、研修は今年度3回開催してすべての職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間帯防犯上の観点で実施している。転倒予防のためセンサー等を利用している人が2名いる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の申し送り、定期的なミーティングの場においても職員間で話し合いお互いに確認する事で虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修等で学ぶ機会をもっており、制度を利用したい家族には活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には利用者や家族の不安や疑問等を確認させて頂き、十分な説明を行い理解・納得を頂いたうえで契約等を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方には日々の生活状況の中から食事内容や外出等の要望、不満、苦情を職員を読み取り、家族には面会・ケアプラン開示時や運営推進会議等にてホームに対する意見や要望を受け入れる事で運営に反映している	苦情の受付体制は重要事項やポスターの掲示により周知を行っている。苦情があった時には苦情処理台帳で受付をし原因を考察して経過、今後の対応に活用している。職員は家族来訪時には、利用者の近況報告をして家族の要望・意見をよく聴くように努めている。また、事業所では家族を招いてのお茶会を開催して家族意見を聞く機会にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は他職員と同様の勤務シフトのなか職員の意見・提案・不満・苦情を聞く機会が自然と設けられる環境下にある。またリーダーからの情報やミーティング等から運営に反映・改善できるよう取り組んでいる	管理者は他の職員と同じく夜勤シフトにも入っている。そのためいつでも他の職員からの意見や提案を受けることができる。法人本部とは離れているが、毎週物品の受け取りや、事務連絡などで訪問したり、法人からも担当の上席職員が訪れて職員の意見を聴取している。管理者とは話しやすい雰囲気になっていると職員から聴取できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握しており、就業規則を明確に提示、給与制度の見直し改善を図る等職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の初任者研修や外部研修の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体の法人内での交流やグループホーム部会や外部主催の訪問研修等をうけいれている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談員からの情報収集だけでなく入居前に直接的に本人と面談する機会を設け、不安や要望等を十分に把握して本人との信頼関係を築けるように努めている。必要とあれば入居前に見学等実際に本人がホームの雰囲気を感じていただけるよう取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時及びサービス導入時に家族と十分な面談を持ち、家族の考えや要望・不安等を十分に理解したうえで信頼関係を築きあげるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に本人と家族が本当にグループホームでのサービス提供が妥当かどうか見極めた上でサービス利用としている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と共に日々の献立を考えたり、食事の準備や片づけ等、居室や共用スペースの清掃等一緒に行う事で共に支え合う関係を築いている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会時等で常に情報交換を行い、家族と共に本人を支えていくという意識のもと家族に認知症や身体機能低下が進行していく本人の対応を助言や家族の不安軽減に努め信頼関係を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの友人や知人が気軽に来訪できる環境を整えたり、これまでの関係が途切れないような支援をしている。家族の方だけでなく定期的な知人の面会もみられる	自分の好きな洋服を持って来たり、好きなテレビを持って来たり、家族の写真を飾ったりして自宅にいたときと近い環境になるようにして生活している。以前住んでいた家の近所の方が遊びに来たり、職員がサポートして墓参りに出かけたり、施設のドライブの時には家の近くまで出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂席や共用スペースでは利用者の個性を尊重、同士の相性等を優先した配置を行う事で自然に関わり合え、お互い支え合う環境が出来ている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除(退居)後も必要に応じて相談や支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活のリズムに合わせた昼寝や就寝時間等の睡眠調整。小さな表情の変化や普段と違う行動等のサインを読み取り対応	コミュニケーションをとる時には、一つ一つゆっくりと話すことを心掛け、言葉の理解や食が低下してきた人には人権に配慮しながら、擬音(パクパク、ゴクゴク等)を使うなどの工夫をしている。利用者の行動パターンや特記事項については申し送りやミーティングで共有して職員が同じ対応をできるようにしている。日頃から家族から家での暮らしぶりや生活歴を聞いたり、本人からも仕事や趣味について聞いて本人の理解に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や環境、馴染みの暮らし方等を本人から自然に引き出したり、家族の方からも本人の生活歴等を面会時等を通して情報収集に努める事で把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の朝夕の申し送りや定期的なミーティングやカンファレンスの場を通じて常に一人ひとりの現状を常に把握している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見や思いを反映させ、ケアマネ・計画作成担当者が中心となりユニットミーティング時にカンファレンス・モニタリングを行う事で現状に則した介護計画を作成している	計画作成担当者がアセスメントしてユニットミーティングでサービス担当者会議を開催してサービス提供を行っている。モニタリングは毎月行い特に大きな変化がなくても半年に一度計画を更新している。利用者の記録は介護経過記録とバイタルチェック表があり、介護経過記録は計画2表のニーズとサービス内容の番号が付されて計画に沿った記録ができるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を記録に記入する事で職員間の情報共有を図り介護計画見直しに活かしているが、気づきや工夫の記録と実践への反映という面においては十分とは言えない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて他科受診のサポートや早期退院への支援に取り組んでいる。時々の状況・状態に応じた柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組みに努めたい		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地区のお年寄りサロンに参加したりしていたが、今年度も参加しておらず地域資源との協働が十分ではない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、本人・家族にかかりつけ医の希望や確認を取り、適切な医療を受けられるように支援している。同法人医師が主治医の場合は医療情報が共有できる体制となっている	協力医療機関が主治医となってい利用者が16人、他2名の利用者が他の主治医となっているが皆往診してくれるため職員は医師と直接に利用者の状況を報告し、医師からはその場で指示を受けている。協力医療機関は月に8回往診に来てくれるほか、看護師の訪問もあるので家族・職員の安心感は大きい。また、急な熱発時等にも24時間オンコール体制で対応してくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併任の看護師へ情報や気づきを看護師連絡表記入し情報の共有を行っている。24時間看護師と相談できる体制が整っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早期退院ができるように情報交換や相談に努めている。病院側とのカンファレンス実施等		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合の説明を行い了承を頂いているも、状態の変化に応じて家族と相談・決定を行なっている。同法人クリニックや老健施設への転院等も行っている	重度化への対応は、利用者のレベルが落ちてくるつど家族と話し合いを持って、必要であれば法人内を含めた他施設への移行の準備を行う。事業所としては経口で食事摂取ができるかどうかを一つの目安としている。看取りの事例は無いがグループホーム駅西における終末期ケアの体制(看取りの指針)や法人としての終末期支援の考え方は整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ職員全員が救命講習等を受け実践力を身に付けているも急変時の経験が少ない		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の対応マニュアルや体制は整備されている	「緊急・防災マニュアル」というファイルの中に、「緊急連絡一覧表」、「緊急時マニュアル(症状変化について)」、「離脱対策マニュアル」、「おとしより おかえり ネット 金沢のご利用方法」などが綴られている。また「業務マニュアル」というファイルの中に、「誤薬(与薬)対策マニュアル(駅西)」、「GH駅西【感染症予防・対策マニュアル】」などがある。職員へのマニュアルの周知の機会として、事故・ひやりはつとをテーマとして施設研修に取り組んでいる。マニュアルは、随時変更があった時に見直している。また、ヒヤリハット報告書を作成し、ミーティングや申し送りで話し合い、事故防止に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関が同法人であり、月2回主治医が訪問診察で来設している等バックアップ機関の支援体制が確保されている	利用者2名以外の方は、協力医療機関の医師を主治医としており、1人月2回の往診を受けている。そのため、月10日ほどは来所しており、いろんな対応をしてもらっている。また、それ以外の2名の方も、別の医療機関より往診してもらっている。利用者の主治医とは1年を通し24時間連絡が取れ、緊急時にも対応してくれる。この他、月4回看護師が来所して、利用者の状態を確認してくれる。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	各ユニット1名の夜勤体制及び緊急時は職員が対応するマニュアルが整備されている	夜間帯に利用者の状態の変化があった場合は、夜勤者が看護師に連絡を入れ指示を受ける。また状態の急変で、夜勤者が対応を迷う場合は、夜勤者は看護師へ連絡し、看護師から医師に連絡を入れ指示を受けることになっている。夜間帯に救急車を呼んだ場合は、管理者または近くの職員が応援に来所し、夜勤者は救急車に同乗する。夜勤が1人体制にならないようにしている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルや防災備品は整備や定期的な避難訓練の実施されている。今	平成30年度は、8月28日、12月29日に夜間想定で、通報・避難・消火訓練を行っている。また、今年度は、災害等への職員の不安の軽減のため、平成31年1月28日と3月5日にそれぞれ昼間想定と夜間想定で防災訓練を実施している。また、この他に通報のみの訓練も実施している。防災訓練の際は訓練計画を作成し、訓練後には写真入りで訓練報告を作成することで、防災意識を高めている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	利用者の安全確保のため法人との協力体制はある	「緊急・防災マニュアル」というファイルの中に、「GH駅西消防マニュアル」、「災害対策マニュアル」、この他法人の「防災マニュアル」もファイルされている。マニュアルの周知は、防災訓練計画に「消防マニュアルに基づき訓練する」と示してあり、防災訓練をマニュアルの職員への周知の機会としている。また、「災害対策マニュアル」の中に、「非常食持ち出し品リスト」があり、防災用品、救急医療品、非常食、日用品が各フロア一ごとに備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間のミーティング等の場においても利用者の人格や尊重に配慮した言葉かけや対応について十分に話し合っている。特に排泄や入浴の場面において入居当初はできるだけ同性対応にて配慮を行っている。また言葉かけや対応に関しては個々のタイミングや言葉使いを常に注意している	日々の取り組みでは、十分に配慮した言葉掛けを心がけている。トイレの失敗があったときには、周りの方に分からないように声をかける。またその人に理解しやすいような言葉掛け、一度にあれもこれも言わずに1つ1つ具体的に伝えている。またその人の生活歴を把握し、本人の生活スタイルを尊重したケア、あるいは、落ち着かず出たがる方には一緒に外に出て気分を紛らすなど、本人の気持ちに寄り添うよう心がけている。プライバシーについては、排泄や入浴の介助の際には、特に配慮している。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で利用者一人ひとりが自らの思いを言えたり自己決定できるような声かけや働きかけをしている。選択できる場面においては常に働きかけている		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状態やペースに合わせた入浴や食事等の提供を行なっている。日々の生活を本人の希望に沿って過ごせるよう支援している		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの衣替えをサポートし過度の重ね着にならないよう調整し、その人の好みによって服が選べるよう支援している。外出時等は特に注意している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、利用者と職員が同じ時間、同じ場所で同じ食事を摂り、盛り付けや片付けを行っている。季節の食材や好みの食材を常に取り入れている	業務マニュアルに食事の項目があり、「会話を楽しみながら楽しい雰囲気の中で食べていただく」、「食堂が明るく、清潔であること」、「心身の状態に応じた食事の提供」、「旬のものを使って季節感を出す」、「嗜好を大切にする」、「温かいものは、温かいうちに提供する」、「一緒に盛り付けしたり、彩など工夫する」とあり、日々そのように取り組んでいる。また食材は、各階ごとに毎日のように買い物に行き、季節の良い時期には、利用者も一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめな水分摂取を嫌がる利用者にはお茶、ジュース等本人の嗜好に合わせた提供を行う事で脱水症状等の予防対策を行っている。嚥下機能低下の状態に合わせてキザミやトロミを加えながらも彩りや食欲を損なわない食事の提供に心がけている		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に応じて口腔ケアの声かけ見守り、サポートを行なっている。義歯利用者には洗浄後消毒等の際、認知症による混乱を最小限に抑えつつ清潔保持に努めている		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄チェック表等を記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけや誘導で排泄の失敗を軽減し、紙パンツ等を使用する際も家族の意向や職員間で話し合い排泄の自立を維持できるよう支援している	排泄チェック表を作成している。入居当初やトイレの声掛けが必要な方を対象にチェックを行い、タイミング良い声かけでトイレで排泄してもらい、失敗を防ぐよう努めている。利用者の状態は、だんだん重度化傾向にはあるが、まだ全体の3分の1程度の方が布パンツを使用している。そのため、本人の排泄能力を可能な限り活用するようにしており、安易にパットやオムツに頼らないように努めている。ペーパーでの拭き取りが不十分な方には、濡れティッシュを使い皮膚を痛めないように配慮したり、立ち上がりが1人で出来ない方には2人体制で介助したり、パンツ・パットを昼・夜で使い分けコストの軽減を図るなど、その方に寄り添う介護になるよう努めている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に水分や野菜等食物繊維の摂取を心がけ、便秘状態に応じて下剤の使用等を調整している。一人ひとりの排泄サイクルを把握し便秘の予防に努めている。毎日ヨーグルト(個人用)を摂られている利用者もいる		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい時に入れるようにほぼ毎日準備している。利用者のペースを大事にしながらも個々に合わせた調整を行ない安心して入浴できる支援を行なっている。利用者によっては同性職員対応等不快・不満にならないよう対応している	日々の取り組みとして、お風呂は各フロアとも毎日わいている。週2回を目標に入浴してもらっている。介助は1対1であるので、歌を歌ったり、いろいろな話をする。いつも若い頃の同じ話を楽しそうにする方もいるが、介護者も楽しそうに聞くようにしており、コミュニケーションの機会となるよう心がけている。また、拒否する方には、前もって脱衣場を温かくするなど環境を工夫したり、お風呂という言葉を使わず「足洗うよ」とか「背中拭くよ」とかいう声かけにするなど、無理強いをせず入浴してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠傾向の方に対しては、安易な睡眠薬の使用や無理に入眠を強いるのではなく、本人の生活習慣に合わせて安心して眠れるような支援に努めている。日中の休息等は状態に応じて自室での静養を支援している		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用をほぼ把握しており、利用者全員を服薬チェック表で誤薬等不備が無いよう注意している。認知症等本人の状態に合わせた服薬の支援を行っている		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で張り合いや喜びが持てるように一人ひとりの生活歴や残存能力を活かした家事仕事等役割の提供。カルタや習字等の楽しみごとや体操やレクリエーションによる気分転換等の支援をしている		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買物や散歩、ドライブ等で日常的に戸外へ出かけられるよう外出の支援をおこなっている。家族の方とは面会時等一緒に外出されたり、外泊もされている。	年2回ホーム前の公園の草むしりに参加しており、利用者の方も1~2名参加している。気候の良い時期は、公園の中や周りを日光浴や散歩をしている。元気な方は、近くのドラッグストアまで歩いて買い物に出かけることもある。また、地域の盆踊りや校下の文化祭、同じグループの施設の催し物などに出かけている。季節の良い時期にはドライブにも出かける。平成30年4月の花見は、兼六園と倶利伽羅の八重桜を見に出かけている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員で管理しているも買物にでかけ本人が欲しい物を購入される場合には状態に応じ財布から本人に直接精算される支援も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族や大切な人に自由に電話をしたり手紙(年賀状等)が出せるように支援している。過去には携帯電話を持ち込まれて利用していた方もいた		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は生活感や季節感を取り入れる雰囲気づくりに取り組んでおり不快な刺激や混乱をまねかないように環境整備に配慮している。共用スペース壁面には毎月季節感表した装飾を施している	日中はほとんどの方がリビングで過ごしている。そのため、利用者の相性を考え、座席やテーブルの配置を工夫し、トラブルをできるだけ少なくし、我慢させることがなく、利用者が楽しく生活できるように配慮している。また、利用者が過ごす場所なので、清潔保持や換気を行い、快適に過ごせるように努めている。また、リビングには花を飾り、毎月壁の飾り付けを変え、外出した際の写真を飾るなど、季節を感じられるように取り組んでいる。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペース、談話スペースとわけた配置にし利用者同士が自然に誘いあって自由にくつろぎながら談話し過ごされている		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴染んだ家具を居室に置き家族の写真や花を飾ったりして少しでも本人が居心地よく過ごせるように環境を整えている。時計やカレンダー設置にてで季節や日時の明確化を行い混乱の予防を図る。テレビ等電化製品も設置している	入居時には、安心して過ごしてもらうように馴染みのものを持ち込むように話している。夫の写真を飾っている方や自分の服を立てかけている方などがいる。寝具もホームでは、冬は毛布1枚、夏はタオルケット1枚を用意しており、その他のものは利用者で必要なものを用意してもらい、利用者の居心地がよいようにしてもらっている。職員は、一緒に掃除し、整理整頓を行い、清潔を保ち、換気やエアコンの温度などにも配慮し、快適に過ごせるよう支援している。環境整備は、本人の意思を確認して、出来ないところを手伝うようにしている。また、居室内の動線を考え、ベッドや家具の位置を工夫し、安全確保にも配慮している。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室などに手すり等の設置で一人ひとりの身体機能を活かして安全かつ自由に自立した暮らしができるように工夫をしている。居室のベット位置等一人ひとりに合わせながらも安全に配慮した配置となっている		